



みんなで作ろう！

健康
しが

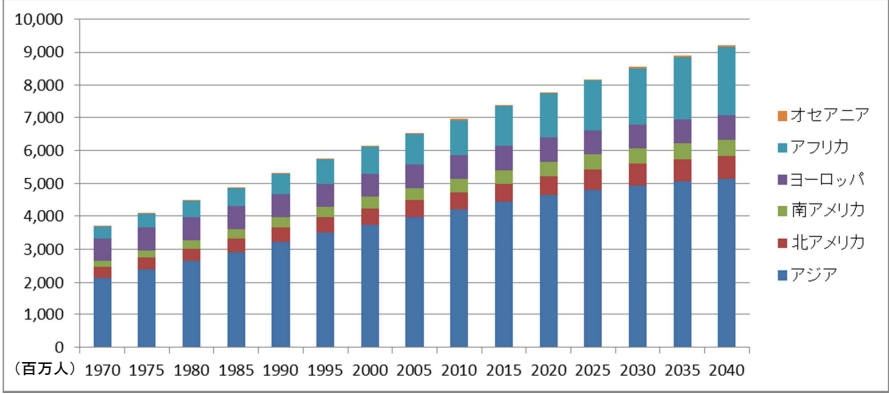
令和元年（2019年）8月



I 滋賀県の現状

①人口動態

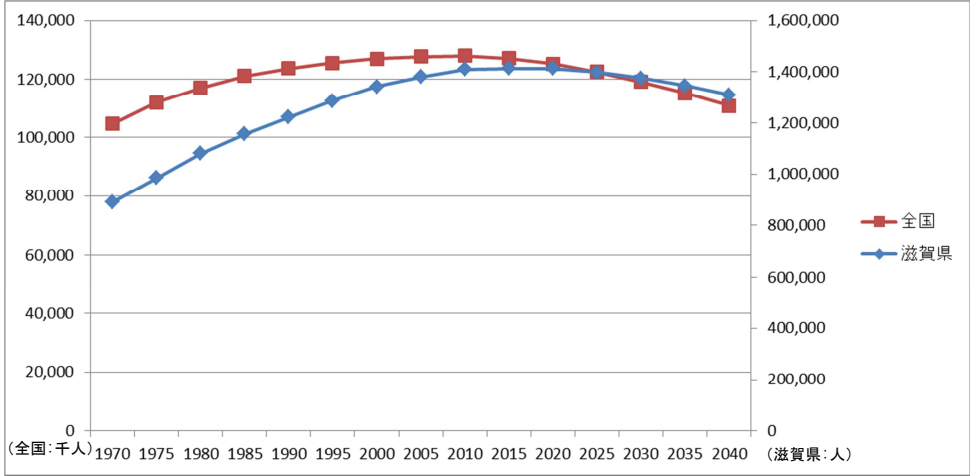
● 世界の人口動態



アジア、アフリカ
を中心に急増

出典: United Nations 「World Population Prospects :The 2017 Revision」

● 全国、滋賀県の人口動態



滋賀県も
人口減少
に転換

出典: 2015 年以前は国勢調査
2020 年以降は国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口 (中位推計値)

➤ 滋賀ぐらし

ほどほど田舎、ほどほど都会。
豊かな自然と豊かな暮らし。
滋賀の魅力に気づいた人からはじめています。

しがJU相談センター(東京)



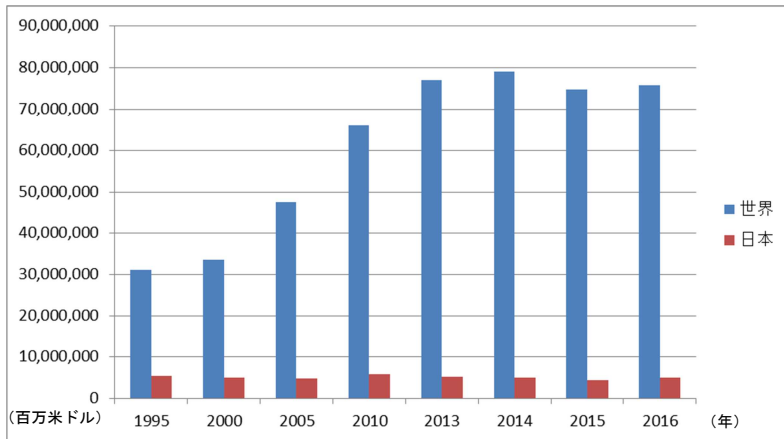
★ 県外からの移住件数

2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	計
98 件	135 件	107 件	117 件	457 件

出典: 滋賀県調べ

②経済動向

● 世界と日本の国内総生産（名目 GDP）



世界に比して、日本の GDP は、ほぼ横ばい

出典: United Nations 「National Accounts Main Aggregates Database」

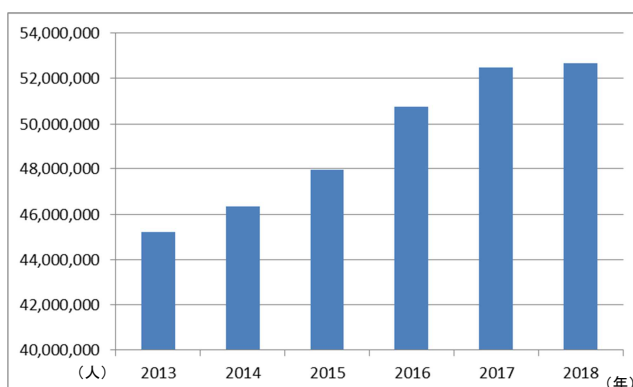
● 県内総生産（名目）



2012 年度以降増加傾向

出典: 滋賀県「滋賀県民経済計算」

● 県内観光入込客数



着実に増加
2018 年は過去最高を記録

出典: 滋賀県「滋賀県観光入込客統計調査」

➤ **ビワイチ**

ビワイチ体験者数が 10 万人を突破！

★ビワイチ体験者数

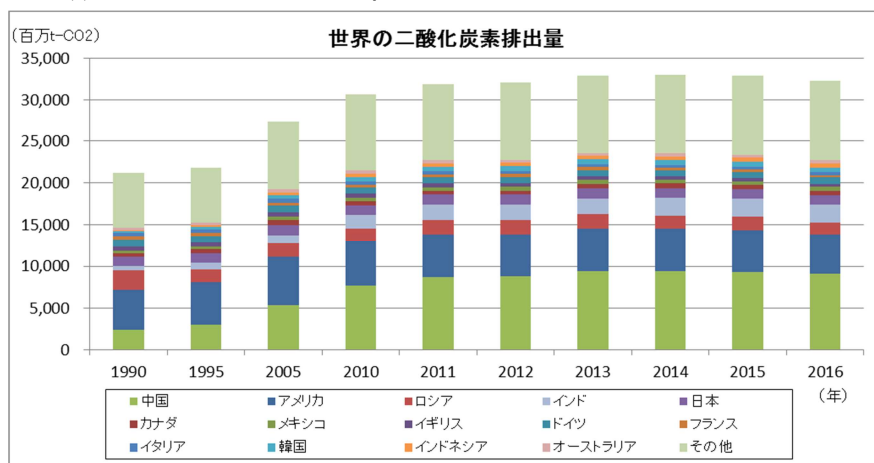
2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
52,000 人	72,000 人	95,000 人	106,000 人

出典: 滋賀県調べ



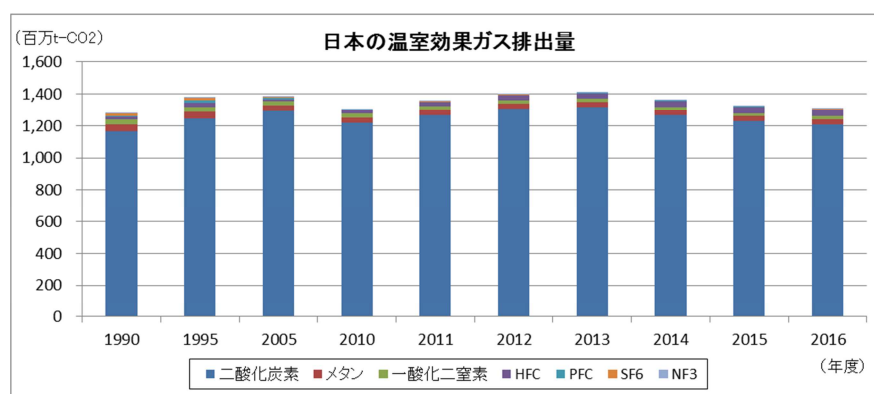
③ **環境保全**

● **温室効果ガス、二酸化炭素の排出量**



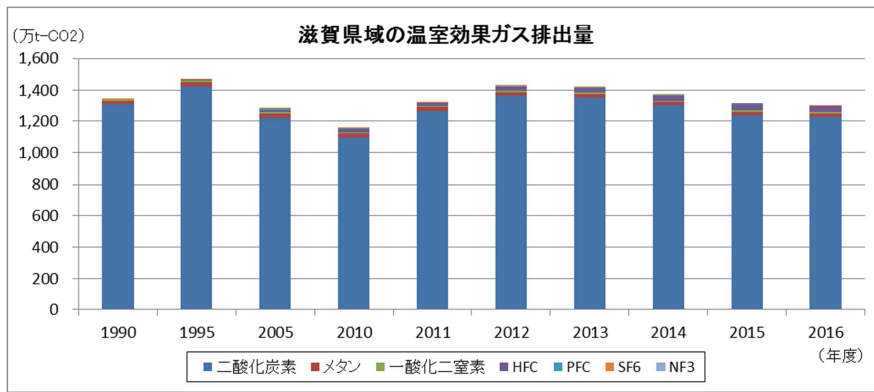
2014 年までは
増加傾向

出典: EDMC「エネルギー・経済統計要覧 2011、2015、2016、2017、2018、2019」



2013 年度から
は減少傾向

出典: 環境省「2017 年度(平成 29 年度)の温室効果ガス排出量(確報値)について」

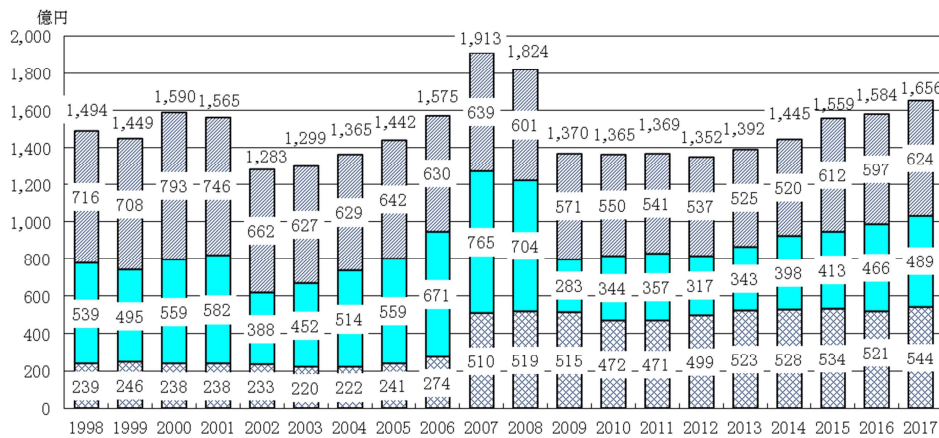


2012年度からは減少傾向

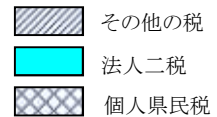
出典: 滋賀県「滋賀県域からの温室効果ガス排出実態(2016年度)について」

④ 県政運営

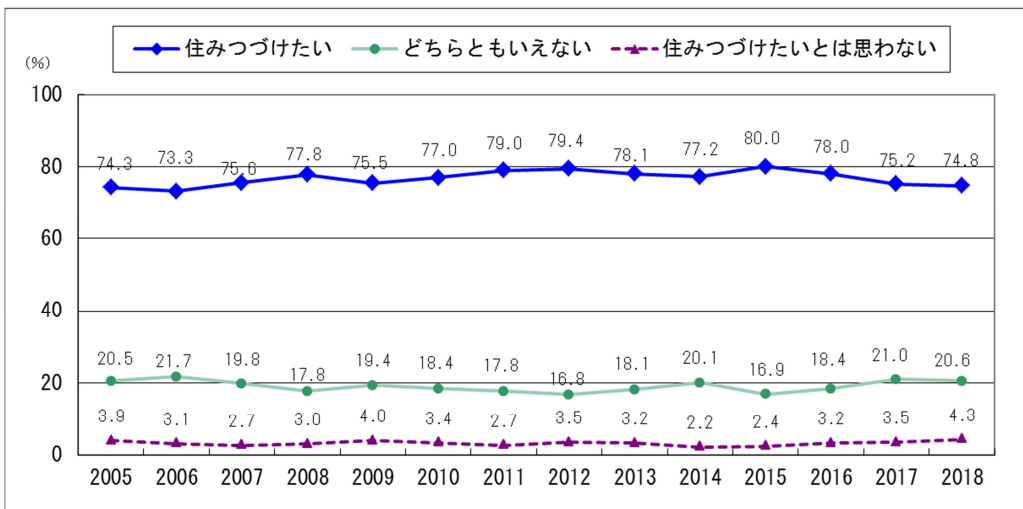
● 県税収入 (決算額)



世界同時不況の影響等により2009年度に大きく落ち込んだが、近年は増加傾向



● これからも滋賀県に住みつづけたいと思う人の割合



2015年度から低下傾向

出典: 滋賀県「滋賀県政世論調査」

II 3つの健康の状況

(1) 人の健康

- 合計特殊出生率 2018年 1.55 (全国平均 1.42)

出典:厚生労働省「人口動態統計月報年計(概数)」

- 平均寿命 2015年 男性 81.78年 (全国平均 81.09年)
女性 87.57年 (全国平均 87.26年)

出典:厚生労働省「簡易生命表」

- 客観的健康寿命 2016年 男性 80.39年 (全国平均 79.47年)
女性 84.44年 (全国平均 83.84年)

出典:厚生労働省発表

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率 2019年度

	教科	平均正答率		全国の 平均正答率との差
		本県	全国	
小学校	国語	本県	61%	-2.8
		全国	63.8%	
	算数	本県	65%	-1.6
		全国	66.6%	
中学校	国語	本県	70%	-2.8
		全国	72.8%	
	数学	本県	57%	-2.8
		全国	59.8%	
	英語	本県	55%	-1.0
		全国	56.0%	

出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

- 「将来の夢や目標を持っている」そう思う・どちらかといえばそう思う

2019年度

		前回調査	今回調査	前回調査 との比較
小学校	本県	68.0%	63.2%	-4.8
	全国	68.2%	65.9%	-2.3
中学校	本県	39.9%	39.2%	-0.7
	全国	45.3%	44.9%	-0.4

出典:文部科学省「全国学力・学習状況調査」

Ⅲ 主な取組

(1) 人の健康

人権と多様性を尊重、生きる力、学ぶ力で“いきいき人生100年”

生きる力・学ぶ力



【平成30年度（2018年度）】

- ◇ 子ども食堂の継続的な運営支援など、子どもを真ん中においた地域づくりを進めるため、「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」（県社会福祉協議会）への支援を始めました。
- ◇ 産科医師の状況調査などを実施し、関係者と今後の分娩のあり方について検討を始めました。[令和元年度も検討継続]

【令和元年度（2019年度）】

- ◇ 子どもたちの「読み解く力」を向上させるため、教員の指導力向上を図り、読書に親しむ環境づくりを支援します。
- ◇ 「うみのこ」や「やまのこ」などの体験学習を引き続き実施します。
- ◇ 県立学校の空調施設整備を前倒しして完了しました。
- ◇ 医療的ケアが必要な児童生徒が保護者の付き添いなしで通学できる仕組みについて引き続き研究しています。
- ◇ 県内大学等におけるリカレント教育振興のための政策研究を行います。
- ◇ 高齢期をポジティブにワクワク生きるための構想を審議会で検討しています。

予防とケア



【平成 30 年度（2018 年度）】

- ◇ 「健康しが」共創会議を設置しました。企業・地域団体等の交流により、健康づくりのための活動の創出を進めています。[令和元年度も継続]
- ◇ 滋賀大学および滋賀医科大学とともに、平均寿命・健康寿命の要因分析等をデータも用いて行いました。
新たに、「シルバー人材センター登録率」や「図書館の貸出冊数」と相関が見られ、生活習慣や生活環境との関わりが大きいことが分かっています。

【令和 元年度（2019 年度）】

- ◇ 来庁者等の受動喫煙を防止するとともに、県庁が率先して敷地内全面禁煙に取り組むことにより、望まない受動喫煙を生じさせることのない環境づくりを進めていくため、県の本庁舎等の敷地内を全面禁煙としました。
- ◇ 地産地消を通じた食で健康につながるメニュー「滋賀めし」の取組を大学や企業等と連携して推進しています。
- ◇ リハビリテーション提供体制の再構築に向けて引き続き検討を行います。

文化とスポーツ



【平成 30 年度（2018 年度）】

- ◇ 新生美術館整備の方針を変更することを平成 30 年 11 月に表明しました。近代美術館は、老朽化対策後、令和 3 年度の再開館を目指します。琵琶湖文化館の機能継承については、懇話会で検討しています。
- ◇ 実践的な活動機会を提供できるスポーツクラブ等と協働し、新たな視点・手法によるスポーツボランティアの拡大・育成に向けた取組を始めました。[令和元年度も継続]

【令和 元年度（2019 年度）】

- ◇ 公益財団法人日本スポーツ協会の理事会において、第 79 回国民スポーツ大会（令和 6 年）の本県開催が内定されました。第 24 回全国障害者スポーツ大会の本県開催も事実上内定されました。
- ◇ 県民の運動・スポーツ環境の充実やスポーツイベントを契機とした海外との交流に取り組んでいます。
- ◇ 天下布武の城「安土城」の実像を明らかにし、その復元を目指す「『幻の安土城』復元プロジェクト」をスタートしました。

(2) 社会の健康

すべての人に居場所と出番 共生社会をつくる力、ひろげる力で暮らしに安心と活力を！

共生社会



【平成 30 年度（2018 年度）】

- ◇ ミシガン州との姉妹提携 50 周年や湖南省との友好提携 35 周年を記念した行事を通して、国際交流を深めました。
- ◇ 農福連携について、農作業受委託のマッチングに取り組むほか、「滋賀県働く障害者を応援する農福連携モデル事業所認定制度」を創設しました。
- ◇ 「滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例」を制定しました。
- ◇ 手話言語や情報コミュニケーションに関する条例について、審議会における検討をスタートしました。令和元年度中に中間まとめを行います。
- ◇ 飼い主のいない猫対策にかかる活動（地域猫活動）補助金を創設しました。[令和元年度も継続]

【令和 元年度（2019 年度）】

- ◇ 農福連携について、障害福祉サービス事業所へ農業技術の専門家を派遣し、アドバイスを行います。特別支援学校と農業分野をつなぐ就農支援システムを構築するための取組をスタートしました。
- ◇ 共生社会条例や「障害の社会モデル」の考え方などを周知するため、フォーラムを開催しました。相談体制を整備するとともに、「合理的配慮」を後押しするための支援を実施しています。

公共交通



【平成 30 年度（2018 年度）】

- ◇ まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築等を目的に「大津湖南エリア地域交通網形成計画」を策定しました。
- ◇ 沿線 10 市町および事業者とともに、将来の近江鉄道線の基本的方向について協議を始めました。令和元年度中に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく法定協議会の設置を目指します。

【令和 元年度（2019 年度）】

- ◇ 地域公共交通のあり方については、地域が協働で実践する交通社会実験への支援などを実施するとともに、自動運転・MaaS 等、新たなモビリティサービスの導入可能性や費用負担について検討を進めます。
- ◇ 通勤・通学時間帯における南草津駅周辺の交通集中による渋滞発生やバス交通の利便性低下などの課題解決に向け、関係者との検討を進め、社会実験を行います。

産業振興



【平成 30 年度（2018 年度）】

- ◇ 経済界と連携し、「滋賀 SDGs x イノベーションハブ」（愛称：しがハブ）を開設しました。SDGs の達成につながる新規事業の創出に取り組んでいます。
- ◇ 「滋賀県事業承継ネットワーク」を設立しました。官民を挙げて中小企業の事業承継を支援しています。
- ◇ スマート農業について、企業等と連携し、フォーラムやドローンを使った実演会の開催などにより新技術の実証等を始めました。[令和元年度も継続]
- ◇ 滋賀県の魅力を歴・食・遊・癒・買・観・美の7つのカテゴリで紹介する観光キャンペーン「虹色の旅へ。滋賀・びわ湖」を実施しました。

【令和 元年度（2019 年度）】

- ◇ 関係者間による情報交換やニーズマッチングの場となる物流プラットフォームの構築を進め、物流課題やニーズに対応したモデルスキームを作成し、物流効率化・高度化に向けた新たな物流ビジネスモデルを検討していきます。
- ◇ 本県に集積する理工系大学等の持つビジネスシーズを発掘し、事業化プランのブラッシュアップや技術、経営面からのハンズオン支援を行うことにより大学発ベンチャー企業が誕生しました。
- ◇ “明智光秀”が主人公となる大河ドラマ「麒麟がくる」や連続テレビ小説「スカレット」の放送を契機に、大型観光キャンペーンを実施します。



【平成 30 年度（2018 年度）】

- ◇ 「滋賀県地震防災プラン」に基づき、「滋賀県災害時受援計画」を策定しました。
- ◇ 大戸川ダムの勉強会を開催し、効果・影響を検証したところ、氾濫面積の抑制や氾濫を遅らせる効果があることなどが確認できました。これらのことなども踏まえ、平成 31 年 4 月に、大戸川ダムは県として必要であると表明しました。
- ◇ 企業との協働により「下水熱勉強会」を開催し、導入可能性について引き続き検討しました。
- ◇ 気候変動適応を推進する拠点として、「滋賀県気候変動適応センター」を設置しました。国立環境研究所と連携し、本県の現状や課題を踏まえて気候変動に関する情報の収集や分析等を進めています。

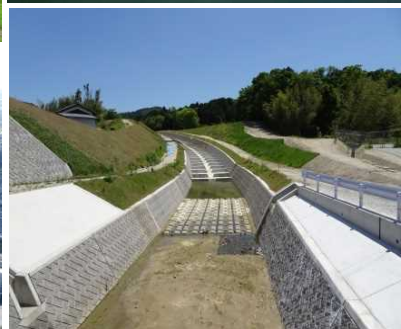
【令和 元年度（2019 年度）】

- ◇ 河川整備などの「ながす対策」、流域に雨水を貯留する「ためる対策」、氾濫原における減災対策である「とどめる対策」、地域の防災力向上を目指す「そなえる対策」を引き続き複合的に実施しています。
- ◇ 市町における災害時受援体制の整備を支援するとともに、受援資機材の整備や受援図上訓練を行います。

道路、河川の整備・管理



左:国道 8 号
野洲栗東バイパス(工事中)



左:日野川右岸(写真左側)にて、
掘削護岸工(竣工)

【平成 30 年度 (2018 年度)】

- ◇ 「第 2 期河川整備 5 ヶ年計画」を策定しました。県民の生命と財産を水害から守るため、当計画に基づき、河川改修・維持管理等を行っています。
- ◇ 琵琶湖大橋に自動料金収受システム (ETC) を導入しました。

【令和 元年度 (2019 年度)】

- ◇ 地域間交流の活性化を図るため、新しい国道 1 号バイパスや国道 8 号バイパス、国道 161 号の整備などの府県をつなぐ道路整備を引き続き推進しています。
- ◇ 大津市 (新名神) と多賀町 (名神) でスマートインターチェンジを整備しています。
- ◇ 「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」の内容を踏まえ、市町や土地改良区等とともに平成 30 年度に策定したソフト・ハード対策を組み合わせた「滋賀県ため池中長期整備計画」の見直しを行います。

(3) 自然の健康

生物多様性 守る力、活かす力で琵琶湖保全と再生！

つながり再生



【平成 30 年度（2018 年度）】

- ◇ 水草の刈り取りを引き続き行いました。水草活用のビジネスモデル化を目指し、企業等に対し支援を行い、商品化につなげることができました。[令和元年度も継続]
- ◇ 令和 3 年度に開催する第 72 回全国植樹祭の会場を「鹿深夢の森」（甲賀市）に決定しました。同祭で使用する苗木を県民参加で育てる「苗木のホームステイ」を実施しました。[令和元年度は苗木のスクールステイを実施]
- ◇ 県内産の繭の確かな需要がある中で、伝統的な地域の産業を支える養蚕業の復活の可能性について、湖北地域で勉強会を行うなど情報収集や調査を進めました。[令和元年度は「未来の養蚕創造プロジェクト事業」として予算化]

【令和 元年度（2019 年度）】

- ◇ アユ、ニゴロブナ、ビワマス、セタシジミ等の種苗放流や増殖対策を引き続き行っています。
- ◇ オオバナミズキンバイ等の侵略的外来水生植物について、引き続き漁協やボランティア等と連携し、徹底した駆除を実施しています。
- ◇ “滋賀らしい”森林・林業人材を育成するため、「滋賀もりづくりアカデミー」を開講しました。
- ◇ いきいきとした森林づくりと地域資源を活かした農山村の活性化を図るため、「やまの健康」を推進します。
- ◇ 環境こだわり農業の象徴として、引き続きオーガニック農業を推進します。

琵琶湖の活用と研究



【平成 30 年度（2018 年度）】

（びわ湖の日）

- ◇ 7月1日（びわ湖の日）から8月11日（山の日）までを重点期間とし、琵琶湖と関わる様々な活動（びわ活）をガイドブック発行やメディア発信等を通じて促進しました。[令和元年度も継続]

（エコツーリズム）

- ◇ 自動撮影機能等を備えたアプリ「ビワイチサイクリングナビ」を企業と共同開発しました。平成30年のビワイチ体験者数は、10万人を突破しました。
- ◇ 第10回全国エコツーリズム学生シンポジウムを沖島ほかで開催しました。

（琵琶湖の活用）

- ◇ 森・里・湖に育まれる漁業と農業が織りなす「琵琶湖システム」が日本農業遺産に認定されました。現在、「世界農業遺産」認定申請に向け準備をしています。
- ◇ みどりのみずべの将来ビジョンの策定に向け、「骨子案」を作成しました。民間活力導入に向けた事業者への意向調査、県民や市町等の意見を踏まえ、令和元

年度中にビジョンを策定します。

- ◇ 適正な負担と利活用のルールづくりについて庁内で検討を進め、「琵琶湖の活用にかかる負担のあり方類型化と課題整理」を行いました。[令和元年度も継続]

(調査・研究や学習)

- ◇ 茨城県で開催された第 17 回世界湖沼会議に参加し、県民一体となった琵琶湖での取組を発信しました。
- ◇ 新たな水質管理指標に向けた議論を有識者懇話会や国との意見交換を通じて行いました。[令和元年度も継続]

【令和 元年度 (2019 年度)】

(エコツーリズム)

- ◇ 「ビワイチ推進総合ビジョン」に基づき、引き続き安全で快適な道路環境の整備などに取り組んでいます。

(調査・研究や学習)

- ◇ 国に対して琵琶湖の課題に理解が得られるよう、琵琶湖保全再生推進協議会等で説明します。琵琶湖保全再生計画の改定に向けた議論を開始します。
- ◇ マザーレイク 21 計画について、ワークショップ等を開催し、県民による議論を深め、今後の方向性を検討します。
- ◇ 守山市の赤野井湾再生プロジェクトと協力して、赤野井湾の湖底ごみの回収を行うとともに、プラスチックごみの実態把握調査を実施しました。

(4) 県政運営



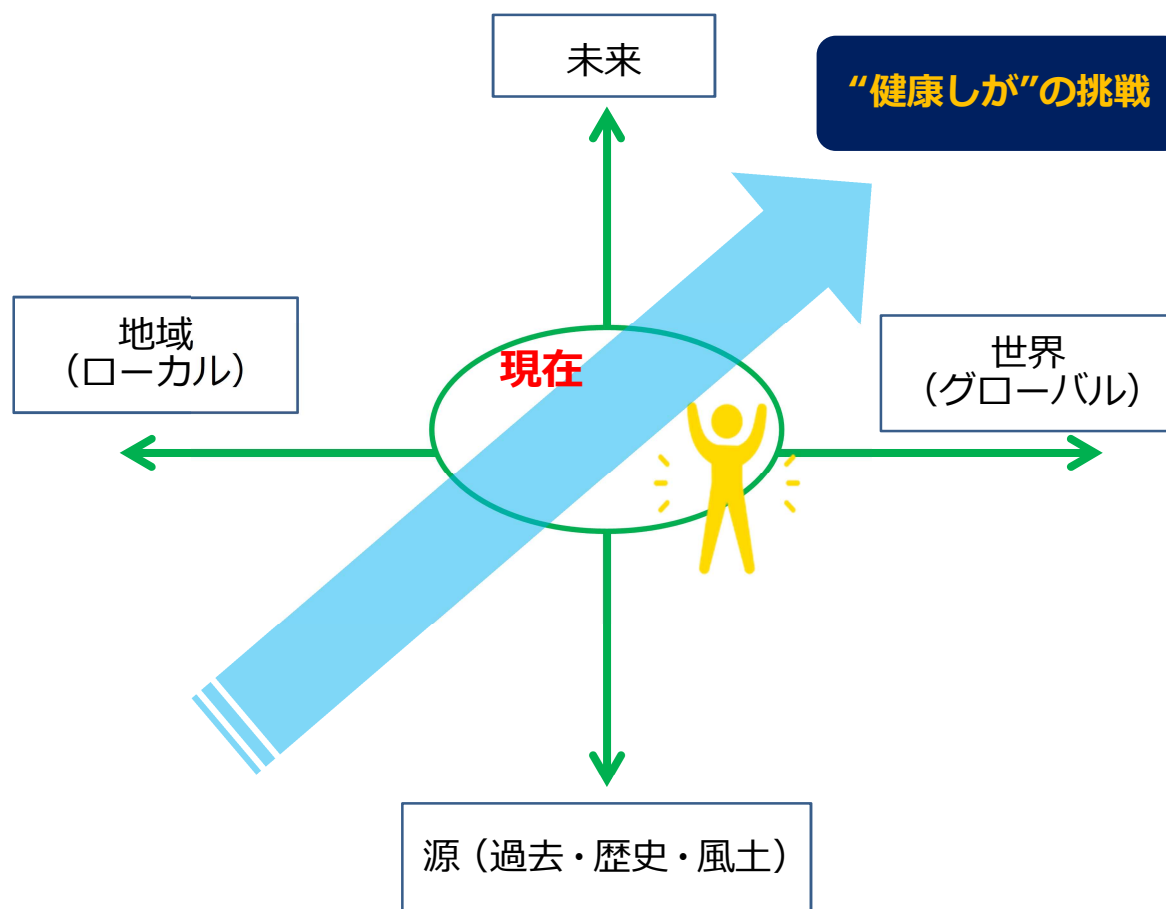
【平成 30 年度（2018 年度）】

- ◇ これまでの働き方改革の取組を更に進化させた“健康経営”に取り組むことを平成 30 年 5 月に「滋賀県庁健康経営宣言」として表明しました。
職員が心身ともに健やかで、やりがいをもって前向きに働くことができる職場環境をつくることで、県の組織としての力を高め、県民サービスの向上を目指します。
- ◇ 多額の財源不足が見込まれることを踏まえ、収支改善目標などを明示した「滋賀県行政経営方針 2019 ～変わる滋賀 変わる県庁～」を策定しました。
当方針に掲げる、“進取でオープンな県庁”、“市町とともに自治を担う県庁”、“スマートでしなやかな県庁”など 5 つの県庁の姿の実現に向け、不断の取組を行います。
- ◇ 「滋賀県公文書等の管理に関する条例」や「滋賀県立公文書館の設置および管理に関する条例」を制定しました。
歴史的事実の記録であり、健全な民主主義の根幹を支える県民共有の知的資源である公文書等を適正に管理し、適切に保存するとともに、利用を促進します。

【令和 元年度（2019 年度）】

- ◇ 公契約条例について、先進自治体を調査した結果や県内企業への優先発注、障害者雇用の促進などの現在の取組を踏まえ、庁内で研究を進めています。
- ◇ 従来にない柔軟な発想で、ICT 等も活用しつつ、スピード感を持って部局横断的に徹底的な業務見直しを行うため、タスクフォースを設置し、検討を進めています。

(5) 今後の方向性



① 世界とのつながりの中で

- ◆ SDGs 未来都市
- ◆ 滋賀国際親善大使
- ◆ 世界農業遺産



② 続く“幸せ”の追求

- ◆ 誰一人取り残さない

③ 未来への挑戦

- ◆ 社会実験にチャレンジ
- ◆ 実証実験のフィールド

